

練習帆船「海王丸」海洋教室の新潟港における
新プログラム実施サポート業務報告書

平成 21 年 9 月

株式会社 丹青研究所

練習帆船「海王丸」海洋教室の新潟港における
新プログラム実施サポート業務報告書

目 次

1．実施の経緯	1
2．募集活動の経緯	1
3．参加者数	4
4．当日取材	4
5．実施内容	5
6．実施結果と課題	5
(1) 参加者の満足度	5
(2) 参加費用	7
(3) 実施の時期	7
(4) 実施時間	7
(5) 募集窓口	8
(6) その他	8

1. 実施の経緯

「海王丸」の研修生制度の一般青少年への有効活用に向けて、B & G 財団海洋センター指導員による国内体験航海コースへの参加が今年度も継続され、全国各地への「海王丸」の活動および海技教育の普及促進が見込まれている。これは日本全国 480 箇所の海洋センターを利用する子供たちに対して、参加した指導員が「海王丸」の広報役として普及を担い、また指導員の多くが当該自治体職員であることから、全国の寄港地における海洋教室の実施や一般公開への動員など、「海王丸」ならびに海技教育財団のさまざまな活動に対する協力関係を全国各地に広げる事が期待できることによる。

このプログラムの実績を踏まえ、「海王丸」研修生制度の一層の有効活用を図り、青少年への船員職業への理解と関心を涵養するため、寄港地における海洋教室の新たな試みとして、独自寄港地における半日コースが計画された。

本年「海王丸」は、招聘によらない独自寄港行動として 8 月 11 日から 15 日にかけて新潟への入港が予定され、この機会に新潟港において夏休み期間中の半日海洋教室を試験的に実施することとなった。そこで、この海洋教室の効果の最大化を図るため、推進方法の助言および参加者募集について支援業務を行った。

2. 募集活動の経緯

1	4 月に入り、海技教育財団より新潟県東京事務所に対して今回の事業の趣旨を説明し、協力要請を求めたところ、募集人数が午前・午後合計 100 名であり、比較的小規模のイベントであるため、新潟市による募集としたい旨回答があり、新潟市東京事務所長を紹介された。
2	B & G 海洋センターに対して、過去 3 回にわたって指導員の体験航海を実施し、本部をはじめ全国の海洋センター指導員との関係強化を図ってきた経緯から、今回のプログラムに対する協力要請を行ったところ、新潟県内阿賀町 B & G 海洋センターに国内体験航海コースに参加した指導員もいることから、ぜひ協力するとの返答を得た。

3	<p>4月22日(水)海技教育財団八谷事務局長および伏井課長に丹青研究所今井主任研究員が同行し、新潟市東京事務所を訪問。鈴木所長、新潟市都市政策部港湾空港課阿部課長、社団法人新潟港振興協会上田専務理事、同事業部松屋次長と面談。協議の結果、新潟市報での募集告知と市ホームページに掲載して募集し、併せて新潟港振興協会は市の外郭団体ではあるものの活動対象は市内に限定されていないため、市外への広報についても必要に応じて協力をする旨の回答を受けた。</p>
4	<p>こうした結果を受けて、4月24日(金)航海訓練所との調整を行い、以下の方向で準備を進めることとなった。</p> <hr/> <p>B & G 財団海洋センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県内のB & G海洋センターにて、小学校4~6年生を対象に募集を行う。 ・8月13日(木)午前プログラムをB & G対象として実施する。 ・山間地の海洋センターからの参加者のため、当日はセンターのバスを提供できる。 <p>新潟市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年は開港140周年でもあり、新潟市後援にて募集協力する。 「海王丸」「日本丸」とも新潟への寄港実績もあることから、市報の募集で充分定員以上に集まると思われるため、地元新聞による告知は行わない。 ・毎週発行している市広報、市ホームページ、市内学校を通じて小学校4~6年生を対象に募集し、市のほうで抽選を行いたい。(海技教育財団では通常先着順で受け付けているが、今回の新潟については、応募者とのトラブルを避けるため抽選としたい) ・8月13日午後のプログラムを対象に募集し、B & G枠に空きがあれば、午前枠にも参加させる。 ・市外郭団体である(社)新潟港振興協会については、全県を対象にできるので、募集広報については市と連携して協力する。 ・「一般公開」を実施してもらえのならば、140年でもあることから、岸壁の警備、見学者誘導などの必要なイベント対応については、市側で予算を含めて対応する用意がある。 <p>航海訓練所 & 「海王丸」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟港寄港にかかる港湾との調整については、運航者である航海訓練所との間で直接行う。 ・寄航中のイルミネーション、出港時の登檣礼などについては、航海訓練所と「海王丸」船長との間で協議の上決定する。 ・新潟市および新潟港振興協会から提案のあった「一般公開」については、本船の運航計画上予定しない。

5	5月24日(日)配布の新潟市報に募集告知掲載、併せてホームページ掲載。申し込み締切りを7月15日(木)として発表。
6	6月末時点での募集状況は、午前(B & G)が16名、午後(新潟市)26名で伸び悩んでいたが、市報への再掲載はできないとのことで、新潟市との間で7月から学校およびボーイスカウト、海洋少年団などへの呼びかけの検討を開始した。またB & Gについては、阿賀町以外の他の海洋センター(安田、燕市など)やボーイスカウトにも呼びかけることとした。
7	その後も参加申し込みは増えなかったため、7月6日(月)より、新潟市により学校が夏休みに入る前に新潟港に近い市内の小中学校に対して募集資料(海技教育財団作成、別添)を配布した結果、24日(金)の時点で、午後の部は合計42名となった。さらに海の日(7月17日)の三連休明けの7月21日(火)の週に新潟市内の海洋少年団、ボーイスカウトに対して市から呼びかけを行ったが、すでに夏休みに入ったこともあり、参加者の増加は得られなかった。
8	B & Gについては、親子での参加希望が多く寄せられたため、親子での参加もできることとしたが、7月24日(金)の時点では参加者20名にとどまっていた。これを受けて海技教育財団からB & G東京本部事業部津田次長に対応要請を行った。津田次長は現地新潟に出張し、直接他の海洋センターに出向き参加者を集めた。
9	こうした経緯を受けて、実施当日まで3週間となったことから、新潟日報への記事掲載を求めることとし、丹青研究所から同紙記者へのコンタクトを開始し、7月29日(水)新潟市内にて新潟日報報道部横山記者と面談し、「海王丸」の新潟寄港と海洋教室の実施について説明を行った(報道資料別添)。併せて、翌日30日(木)新潟市都市政策部港湾空港課を訪問し、今井副主査と面談し、推進状況と新潟日報との面談結果を報告した。なお、この新潟日報とのコンタクトおよび記事掲載への働きかけには平山前知事、元県職員で新潟産業創造機構牧野副理事長に尽力いただいた。
10	8月2日(日)新潟日報に記事掲載(掲載紙別添)受付を海技教育財団とした。翌日3日(月)より海技教育財団事務所への問い合わせが多数寄せられた。
11	B & Gについても8月4日(火)の時点で、本部からの継続した募集活動も奏功し、新潟日報による募集と併せて、予定されていた50名の参加者が確保できた。
12	8月5日(水)海技教育財団と航海訓練所との間で実施に当たっての最終的な事前打合せが行われ、実施手順が確認された。

3. 参加者数

「海王丸」新潟西港半日海洋教室コースの最終的な参加者は下記の通り。

1	午前の部（小学校4年生以上、親子での参加も可、定員50名）	
	新潟県内のB & G海洋センターによる参加	40名
	新潟日報による追加応募	9名（当日キャンセル1名）
	「海王丸」倶楽部	1名
	合計	50名（当初51名）

2	午後の部（小学校4年生～6年生、定員50名）	
	新潟市による公募	40名（当日キャンセル1名）
	新潟日報による応募	6名
	合計	46名（当初47名）

4. 当日取材

当日、取材があったのは下記のメディアである。

新聞	新潟日報（掲載紙添付）、読売新聞（掲載紙添付）、産経新聞
TV	NHK新潟（報道ビデオCD添付）、NST新潟総合TV（報道ビデオCD添付）、新潟TV21（報道ビデオCD添付）、BSN新潟放送、TV新潟（Teny）、UX、新潟ケーブルテレビ（NCV）
ラジオ	エフエム新津
その他	新潟市東区役所地域課企画係

5. 実施内容

プログラムの実施内容は下記の通りである。

日時	平成 21 年 8 月 13 日 (木) 1. 午前の部：午前 10 時から 12 時 2. 午後の部：午後 1 時 30 分から 3 時 30 分
場所	新潟西港山の下埠頭
実施の内容	1. 午前の部 (雨天のため内容変更) a. ロープワーク b. 船内見学 c. 甲板磨き d. 船長講話 2. 午後の部 a. バウスプリット渡り b. 展帆体験 (ジガーステイスル) c. 甲板磨き d. 舵輪操作体験 e. 船長講話
実施対象	新潟県内の B & G 海洋センターの協力による施設利用者への 公募 新潟県・市および地元メディアの協力による一般公募
参加費	1 名あたり 1,000 円

6. 実施結果と課題

(1) 参加者の満足度

午前の部 50 名、午後の部 46 名、合計 96 名となった参加者に対して財団が行ったアンケート結果によると、一番印象に残ったことは次の通り。

午前の部、午後の部ごとの傾向

1 午前の部（小学校4年生以上、親子での参加も可、定員50名）	
印象に残ったプログラム	<ol style="list-style-type: none"> 1. 船内見学（46%） 2. 舵輪操作体験（25%） 3. 船長講話（14%）
上記以外で特に良かったこと （多く見られた回答）	<ul style="list-style-type: none"> ・船内見学では説明をする人がやさしく、面白く、笑顔で説明をしてくれたのがよかった。 ・普段ではできない船内見学ができ満足している。

2 午後の部（小学校4年生～6年生、定員50名）	
印象に残ったプログラム	<ol style="list-style-type: none"> 1. バウスプリット渡り（75%） 2. デッキのヤシ摺り（11%） 3. 舵輪操作体験（6%）
上記以外で特に良かったこと （多く見られた回答）	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使った映像による船長講話がわかりやすかった。 ・全体を通じて担当者の説明が丁寧で分かり易く十分楽しめた。

全体の傾向

午前午後を通して参加者たちは、本船側の分かり易い説明や丁寧な対応に満足していることが伺える。さらに、今回の体験を通じて船への興味や海への関心が深まったと回答している。また、当日岸壁に見学に訪れた一般来場者の中からも、「海洋教室に参加できるのか」「参加したいのだがどうすれば良いか」という質問が数多くあった。

以上の調査結果により、参加者における満足度は非常に高く、また一般からの海洋教室参加への関心も高いといえる。

(2) 参加費用

通常 1 日の海洋教室コースでは 1 名あたり 2,000 円の設定がされており、半日コースなのでその半額として 1 名あたり 1,000 円という料金設定がなされたが、今後も同じ金額で継続するかどうかは検討を要する。なぜなら、1 日コースでは船内の昼食も提供され、実施内容も多岐に渡るため“ 応分の実費負担 ”として理解が得られるが、半日コースでは食事の提供は無く、認定書の他には特別な記念品等も配布されるわけではないため、公的機関が行うプログラムとして“ 応分の実費負担 ”として価格が適切かどうかは、引き続き検証の必要があると思われる。但し、当日の参加者およびその保護者の反応では、抵抗感があるようには見受けられなかった。

ちなみに、有料での海洋教室を学校行事として募集する場合には、公立学校においては前年の 10 月から調整を開始する必要がある、しかも 1 名 1,000 円の参加費は、公立学校行事としてはかなりの高額である。学校行事においては P T A 会費から捻出できる金額内に限られる場合がほとんどであり、他の財源を学校側に期待することはできない。また学校行事の場合には 1 クラス全員が参加できる人数であることが必須条件である。

(3) 実施の時期

一般募集による小学生を中心とした海洋教室の実施は、学校が休みの日に限られる。また今後近い時期、「ゆとり教育」の見直しによって、土曜日が再び就学日となることが明らかとなっているため、土曜日の実施についても制約が出てくることが想定される。

従って、小学生を対象とするには、日曜日、祝日、春休み、夏休みに限られる。また中学生を対象に含める場合には、春・夏休みの部活動の日程も考慮に入れる必要がある。

さらに、今回の新潟での実施において、当初お盆当日という日程から募集が伸び悩んだと思われたが、実際には広報の不足が原因であり、新潟日報掲載後は募集が上向いた。但し、午後の部については定員に満たない結果となり、お盆の墓参りを重んじる地域の特徴が現れたともいえる。

(4) 実施時間

今回の午前・午後での半日コースにおける実施時間帯は、参加者の集合時間、解散時間を考えると適切であったと思われる。

求められるプログラムの内容にもよるが、1日コースの実施においても、9:30 集合、10:00 開始、15:00 終了・下船は、参加者の自宅からの出発の時間、帰宅の時間を考えると適当な時間帯であり、今後の実施において検討されて良いと思われる。

(5) 募集窓口

今回の新潟での実施において、現地での募集の窓口が新潟市、B & G、そして直前に海技教育財団と最終的に3者となった。結果としてそれによる混乱はなかったが、今後は、地元自治体、B & Gのいずれかで推進できることが望ましい。

自治体については、新潟市が当初、応募の殺到を懸念するあまり、地元新聞での告知を見合わせたことによる募集の伸び悩みがあった。市報の影響力、情報伝達力が予想したほどには期待できないことは事実であり、新潟市に限ったことではない。逆に、新潟のように地域的特性の強い地域でこの状態であったことは、他の大都市ではもっと効果が低いと想定したほうがリスクはない。この傾向は、「海王丸」の寄港地での一般公開の乗船者数の傾向と相似関係にあるはずである。

B & Gについては、今後とも国内体験航海コースに各地の指導員の参加が続くのであれば、参加経験のある指導員が増加していくに従って、全国のB & Gによる協力体制は一層厚いものとなることが期待できる。今後、航海訓練所、海技教育財団との3者間で友好的な関係を維持することにより、海洋教室への募集も効果的に機能すると思われる。

以上、今回の新潟での実施から検証すると、今後の海洋教室を独自寄港地において行う際の募集については、以下のセットで行うことが最も現実的かつ効果的であるといえる。またこれは1日コースにおいても同様である。

寄港地の自治体（市）による一般募集
併せて地元新聞への記事掲載
B & G海洋センターを通じた組織的な募集

(6) その他

募集において1日コースを50名集めるのと、半日コースを100名集めるのとでは、募集活動にかかる労力に大きな差がある。参加者にとっては1

日コースの方が魅力的であり、その場合に参加費の 2,000 円が障害になると思われないため、1 日コース 50 名の方が募集は容易である。逆に 100 名の募集は予想した以上にエネルギーが必要である。

寄港地でのイベント開催に併せた告知がない独自寄港地において海洋教室を実施するためには前項で検証した複合的な募集活動が不可欠となる。実施に当たって海技教育財団の業務量に応じて判断されるべきであろう。

練習帆船「海王丸」海洋教室の新潟港における
新プログラム実施サポート業務報告書

発行日：平成 21 年 9 月 15 日

調査・編集・発行：株式会社丹青研究所

〒110-0005 東京都台東区上野 5-3-4 植木ビル

TEL：03-3836-7322 FAX：03-3836-7321